

## IT-1 自社を差別化できる戦略的提案プロセス 13:10 低迷期における生き残りのための案件獲得術

株式会社 PMコンセプト  
代表取締役社長 長尾 清一

### 【セッション概要】

各業界で情報システム投資の前年比割れが続いている。開発案件の減少により、殆どの案件が価格競争に陥っている。単にRFPに対応した提案では、激化した受注競争を乗り切れない。では勝率の高い提案には何が必要か？ 顧客に「意外性」を感じさせ自社を差別化できる提案である。顧客ニーズを満たす「戦略的ストーリー」が描けるかどうか鍵になる。本セミナーは、営業職と連携して「顧客に対する自社の優位性」と「競合に対する比較優位性」を実現できる提案スキルを解説する。

【講演者略歴】 UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年PMP®取得。97年株式会社PMコンセプト設立。近著に「問題プロジェクトの火消し術」「ベンダー・マネジメントの極意」

## IT-2 決済システムの要件定義における取捨選択 14:15 予見する力と捨てる勇氣

ヤフー株式会社  
ID決済サービス本部 決済企画部 部長 田鎖 智人

### 【セッション概要】

決済システムに求められる要件は高く、システム評価に求められる「RASIS」を満たすと同時に、高い汎用性も求められる。社内の経理部門やサービス部門はもとより、消費者、ビジネスパートナー、金融機関など対外的にもシステムユーザーが多岐に亘り、リリース後の仕様変更が困難であるため、要件定義は一般的なシステムより高い精度が求められる。本セッションでは、決済システムに関わる方々に何らかの形で寄与できるよう、この課題への取り組み状況を共有する。

【講演者略歴】 1995年クレジットカード会社入社。2003年ヤフー株式会社入社。Yahoo!ポイントやジャパンネット銀行と連携した決済サービス等の立ち上げを担当。2006年ジャパンネット銀行非常勤取締役(現任)。2009年決済企画部長として決済サービスの統括を担当。

## IT-3 要件定義の勘どころ 15:35 プロジェクトを成功に導く要件定義の方法は何か

DICインフォメーションサービス株式会社  
代表取締役社長 小田 滋

### 【セッション概要】

日本情報システムユーザー協会(JUAS)のIT動向調査では、2009年度においても40%強の大規模プロジェクトが工期遅延と予算超過となっている。また、工期遅延においては54%が要件仕様の問題があったとしている。一方、要件仕様が明確であった場合は79%がほぼ予定通りの工期であった。昨年JUASにおいて実施された、日本の代表的ソリューションベンダーとユーザーでのパートナーシップの改善プロジェクトにおいて議論された成果を踏まえ、自社の内容を加味して紹介する。

【講演者略歴】 DICに入社後、事業部で新製品開発。原料部門で国際調達の組織立上とDWH構築。市場開発部で新事業の創出に加わった後、2001年に情報システム部門に。2003年にDIC情報システム部長、2009年より現職。経済産業省やJUASの部会・委員会・コンシリアムのメンバー。

## IT-4 プロジェクト描写のための情報構造 16:40 正確なプロジェクト把握のために

株式会社 日立システムアンドサービス  
品質保証部 主任技師 高橋 敏浩

### 【セッション概要】

ソフトウェア開発時、開発実態を把握し、把握された情報が関係者の間で共有されている必要がある。この情報が、様々な人の判断の基礎になるからである。現場の状況を正しく把握し、必要な情報を関係者に正しくかつ適切に伝える必要があるが、今のプロジェクトでは必ずしも上手くいっていない。開発現場の実態を如何に捉えるかPMは悩んでいる。それぞれの役割を持つ人々に適切な情報を与えるため、プロジェクト情報を構造化し、正確に状況把握する方法を提案する。

【講演者略歴】 1991年日立システムエンジニアリング株式会社(現株式会社日立システムアンドサービス)入社。交通系個別受注システムの品質保証業務に従事。2009年、PM支援によるプロジェクト成功経験論文をソフトウェア品質シンポジウムで発表し「SQiP Effective Award」受賞。

## PA-1 法人運営を通じたP2M実践事例 13:10 海外法人と傍系子会社運営でのスパイラルアップ

株式会社 朝日興産  
取締役社長 坂井 剛太郎

### 【セッション概要】

国内外の建設プロジェクト運営・管理や技術指導、社内業務改革等、建設業におけるPM手法の活用・展開を行った実践経験をベースに、ここでは法人格の組織運営責任者として実施した、経営におけるP2Mの応用事例について論じる。PMフォーラム2009京都で講演した海外現地法人事例での内容に、現職の傍系会社における実施事例を加えて検証した、運営責任者に求められるP2M能力について、法人運営のモデル化を始め、経営上の視点で考察する。

【講演者略歴】 1982年京都大学工学部建築学科卒、同年竹中工務店入社。大阪本店作業所、タイ駐在、アメリカ駐在、本社生産本部を経て、2002年香港竹中代表、2005年アメリカ竹中代表、2009年より現職。技術士(経営工学、総合技術監理)、一級建築士、一級施工管理技士。

## PA-2 競争力のある組込みシステム開発の方法 14:15 擦り合わせ型指向開発の方法とその革新

株式会社 プロセスネットワーク  
代表取締役社長 金子 龍三

### 【セッション概要】

組込みシステム開発の改善及び改革の方法である組み合わせ及び擦り合わせについて、アーキテクチャと開発モデルの両面から説明し、組込みシステム開発プロジェクトマネジメントの勘所さらにスポンサーを含めた人材育成について、平成21年度調査研究「擦り合わせ型指向による組込みシステム開発プロジェクトマネジメント基盤」の調査研究報告に基づいて説明する。ITシステム開発と組込みシステム開発のプロジェクトマネジメント上の相違点についても補足説明する。

【講演者略歴】 1970年日本電気株式会社入社、情報システム開発を経て、組込みシステム開発を担当、部長級、本部長を歴任。その後、日本電気通信システム株式会社において品質保証担当執行役員 部長級PM研修機関の長を歴任。2006年株式会社 プロセスネットワーク 代表取締役社長

## PA-3 サステナブルP2Mのエンジニアリング基盤 15:35

青山学院大学 総合研究所  
客員研究員 梅田 富雄

### 【セッション概要】

企業は、サステナビリティ志向の活動を前提にその存続条件を満たしながら運営される必要がある。本報告では、製造業における新たな事業展開において、P2Mの実践にあたり、標準プロジェクトモデルによって構成されるプログラムの生成過程を明らかにし、次いでサステナビリティ志向活動に基づくエンジニアリングとマネジメントについて、必要とするシステムのデザイン及びオペレーションに関するエンジニアリング基盤について取り上げる。

【講演者略歴】 1958年東工大卒、千代田化工建設入社、副本部長、技監を歴任。1989年退職、筑波大学大学院経営システム科学専攻教授、1995年11月千葉工業大学工業経営学教授、1997年プロジェクトマネジメント学科設立に従事、同学科教授、2003年同大学定年退職、現在にいたる。

## PA-4 IT分野でのP2M活用研究 16:40 IT分野でのP2M必要性と普及のための方策

株式会社 ゆうちよ銀行  
第一システム開発部 部長 近藤 洋司

### 【セッション概要】

IT分野ではプロジェクトマネジメントが普及、定着しつつあるが、一方では、プロジェクトの高度化、複雑化、更には経営と直結した案件も取り扱うことで、従来のプロジェクトマネジメント手法だけでは限界を感じるようになって来た。依頼者側とベンダー側とを一体的にマネジメントし、最適解(機能、納期、コスト、成果)を求める仕組み・やり方が求められつつある。P2Mがこれら要求に如何に応えられるか、また、応えるにはどうしたら良いか、研究成果を報告する。

【講演者略歴】 早稲田大学理工学部卒業、富士通株式会社入社。主として、金融機関向けシステム開発に従事。システムエンジニア、プロジェクトマネジャー、システムコンサルタントなどを経て現職。

## EG-1 P2Mから見たCO2削減達成に伴う 13:10 グリーンビル戦略への提案

日本工業大学 大学院  
技術経営研究科 客員教授 太田 鋼治

### 【セッション概要】

国が推進している「環境不動産(ERE)戦略」と「ゼロ・エネルギー・ビルディング」の両面から、CO2削減に関連するプロジェクト戦略について、分かり易く説明する。増大する「グリーンコスト」を、日本の環境先端技術と融合した全体最適性のあるVFM(バリューフォーマネー)の視点から、先進的な手法と言われるシンガポールのグリーンマーク事例と比較分析し、環境分野でのP2M手法の普及と低迷する日本の建設／不動産業の活性化を提案する。

【講演者略歴】 1979年芝浦工業大学卒業、同年鹿島建設入社。1989年ロンドン大学院卒。16年間シンガポール、英国の海外工事に従事。2000年より開発型建設プロジェクトなど次世代型建設に従事。社団法人日本建築積算協会理事／関東支部長、工学博士、一級建築士、一級建築施工管理技士

## EG-2 羽田D滑走路建設工事のジャケット製作 14:15 大量・短期間の鋼構造製作プロジェクトマネジメント事例

羽田再拡張D滑走路建設工事共同企業体  
ジャケット製作工区 工区長 竹内 貴司

### 【セッション概要】

羽田空港4本目の滑走路であるD滑走路は、ジャケット栈橋工法と埋立工法を組み合わせたハイブリッド形式である。新滑走路島(全長3120m)の約3分の1(1100m)は、多摩川の流れを阻害しないように、ジャケット構造で構成されている。198基のジャケットの鋼材重量は26万トンにも及ぶ。この大量のジャケットをわずか3年(2006年12月～2009年12月)で製作したフォーメーション、リスク、成功・失敗事例、リカバリーなどについて、紹介する。

【講演者略歴】 1984年新日本製鐵株式会社入社。主としてパイプラインのエンジニアリング業務に従事。水道施設部長を経て、2005年羽田D滑走路建設工事共同企業体へ派遣、ジャケット製作工区長。所属は新日鉄エンジニアリング株式会社海洋事業部 ゼネラルマネジャー。

## EG-3 公務員改革プロジェクトの方向性と具体策 15:35 元官僚、現コンサルタントが語る「公務員改革なくして国滅ぶ」

株式会社 グローバルダイナミクス 代表取締役社長、  
関西学院大学 経営戦略研究科教授 山中 俊之

### 【セッション概要】

現在、公務員改革が僅々の課題となっております。明治以来日本社会の中枢に位置した公務員制度が、制度疲労を起こしています。一方で、公務員改革を進める政治家は、公務員との様々なしがらみがあり、改革が推進できていません。元官僚(外務省)で、現在は大阪府や厚労省の改革にも関与するコンサルタントが、官民比較や海外の視点も入れて、公務員改革について、プロジェクトマネジメントの視点から縦横に語ります。

【講演者略歴】 株式会社グローバルダイナミクス代表取締役社長。関西学院大学 大学院 経営戦略研究科 教授。1990年外務省入省。対中東外交、地球環境問題等担当。著書「公務員人事の研究」「公務員の人材流動化がこの国を劇的に変える」(東洋経済新報社)など。

## EG-4 超大型LNGプラント建設への挑戦 16:40 世界最大のカタールLNGプロジェクト遂行の記録

千代田化工建設株式会社  
理事 技術部門 副部門長 池田 誠一郎

### 【セッション概要】

2004年から始まったカタールガスIIのLNGプラント建設プロジェクトは世界最大級のLNG生産設備を有する超大型プロジェクトであった。その設備は年産780万トン(日本の年間LNG総輸入量の10分の1を賄う量)規模のプラントを2系列有すものである。プロジェクトを遂行するに当たり、世界各地より機器・資材を調達し、世界約40カ国からなる人材を投入した。いくつもの課題を克服して遂行したプロジェクトの記録を振り返り、プロジェクトマネジメント実践の観点から一考察を発表する。

【講演者略歴】 九州大学工学部応用化学科卒、千代田化工建設株式会社入社。石油・石油化学・LNGの海外プロジェクトにてPM/EMとして従事。プロジェクトマネージメント部長、カタール本部副本部長を歴任し、カタールガスII LNGプロジェクトのPD。現在、技術部門副部門長。